



プランクトンは何を食べるの

プランクトンには二種類ある

プランクトンとよばれるものは、たいていの川、池、海などにすんでいて、植物性プランクトンと、動物性プランクトンの二つに仲間分けできます。

自分で栄養分を作る 植物性 プランクトン

植物性プランクトンは、ふつうの木の葉や草などと同じように、光合成を行って、栄養分を作ります。光合成とは、植物の緑の部分(葉緑体)で、日光を受けて、二酸化炭素と水から、でんぷんなどの栄養分を作り出すはたらきをいいます。だから、植物性プランクトンは、えさはいらなないといえます。でも、野菜や花を育てるのに、量は少しでよいけれど、なくてはならない養分(肥料)が必要です。水底のどろの中などには、いろいろなバクテリアがいて、かれた植物や死んだ動物や生き物のふんなどを分解して、植物プランクトンが使える養分に変えて、水にとかしこんでいます。

植物性 プランクトンがえさになる

動物性プランクトンは、自分で栄養分を作ることができませんから、植物性プランクトンや、ほかの動物性プランクトンをえさにしています。また、これらのプランクトンは、水の中にすむ、たくさんの魚やいろいろな生物のえさになっています。

ちょうど、死んだ動物やかれた植物を土の中のバクテリアが分解し、その養分で植物が育ち、植物を草食動物がえさにし、人間や肉食動物が、草食動物を食べる、という関係と同じようなものです。(監修・安部 義孝)

